

第 3 章

この章では、面会に通っていた人を含め、付き添い者が付き添い中に行っていた入院児の世話やケアの状況、看護師にまかせたいケアとその理由、看護師にまかせられないと思った経験などについて調査した内容を報告する。

【付き添い中の世話やケア】

付き添い者の8～9割は、食事介助、排泄ケア、清潔ケア、服薬、見守り、寝かしつけ、遊び、精神的支援など多岐にわたる世話やケアを行っていた。

「その他のケア」として記入された個々の内容を検討すると、約半数が医療的ケアにあたり、それらのケアも非常に多岐にわたると同時に看護要員（看護師、准看護師、看護補助者）が対応すべき内容も散見された。

年齢3区分別（乳児／1歳未満、幼児／1～6歳未満、児童／6歳以上）で付き添い者が行っていた世話やケアをみると、子どもの年齢が高くなるほど、食事介助、排泄ケア、清潔ケア、寝かしつけを行っていない付き添い者が多かった。一方で、子どもの年齢にかかわらず、服薬、見守り、精神的ケアを行っている付き添い者が多かった。

「付き添い入院のみ」の付き添い者は、そのほかの群（「付き添い入院と面会の両方」、「面会のみ」）よりもすべてのケアにおいて最も多く行っていた。なかでも「付き添い入院のみ」と「面会のみ」で付き添い者が行っていた世話やケアを比較すると、寝かしつけ、服薬、遊びで30ポイント以上の大きな差があった。

入院期間別の「短期（2週間未満）」と「長期（2週間以上）」で付き添い者が行っている世話やケアを比較すると、清潔ケア、服薬、寝かしつけ、学習支援では差が見られたが、それ以外では大きな違いはみられなかった。

「コロナ前（2019年12月以前）」と「コロナ後（2020年1月以降）」では付き添い者が行っている世話やケアの内容に大きな違いはみられなかった。

【世話やケアに費やした1日あたりの時間】

世話やケアに費やした1日あたりの時間は、「21～24時間」と回答した人が最も多く、全体の4分の1を占めた。睡眠中も付き添い者の気の休まらない日々が続いていることが推測された。付き添い形態別では「付き添い入院のみ」「付き添い入院と面会の両方」のほうが「面会のみ」より世話やケアに費やす時間が多かった。

入院期間別の「短期（2週間未満）」と「長期（2週間以上）」では1日あたりの世話やケアに費やす時間に大きな違いはみられなかった。

「コロナ前（2019年12月以前）」と「コロナ後（2020年1月以降）」では1日あたりの世話やケアに費やす時間に大きな違いはみられなかった。

【看護師にまかせたいケア】

看護師にまかせたいケアは、清潔ケアが4割と最も多かった。次いで見守り、服薬、食事介助が続いた。一方で「まかせたいケアはない」との回答も全体の3割を占めた。

年齢3区分別（乳児／1歳未満、幼児／1～6歳未満、児童／6歳以上）でも看護師にまかせたいケアに大きな違いはみられなかった。

「看護師にまかせたいケア」の理由について1,951件の自由記述があった。入院児のどの年齢においても「医療的処置を施された中での世話やケアは、安全を確保するうえでも専門家（看護要員）にまかせたい」という意見が多数を占めた。また、「成人の場合は医療従事者が行っていることなのに、小児は親が受け持つ理由がわからない」、「付き添い者のいない入院児はスタッフが世話をしており、親は労働者の一員としてみなされていると感じた」、「治療にかかわるケアは病院側がやるべきだと思う。親は子どもの精神的な面などのサポートに集中したい」といった意見も散見された。

【看護師にケアをまかせられないと思った経験について】

看護師にケアをまかせられない（親が付き添わないと安心できない）と思ったことがある付き添い者は全体の6割を占めた。年齢3区分別（乳児／1歳未満、幼児／1～6歳未満、児童／6歳以上）でも、この傾向は同じだった。

入院していた病院の種別でみると大学病院や子ども病院で付き添っていた人のほうが看護師にケアをまかせられないと思ったことがやや多かった。入院期間が長くなると、ケアをまかせられない割合も高まるため、大学病院や子ども病院では、それ以外の病院よりも長期入院が多いことが影響していると考えられる。

看護師にまかせられない理由は「看護師が忙しくて十分に面倒を見てもらえないと感じたから」が8割を超えており、最も多かった。

【看護師以外に世話やケアをまかせたい人について】

「保育士」に世話やケアをまかせたいと答える人が全体の7割と最も多かった。次いで「CLS（チャイルド・ライフ・スペシャリスト）」、「ボランティア（見守り、遊び）」が続いた。一方で、「まかせたい人はいない」との回答も2割強あった。

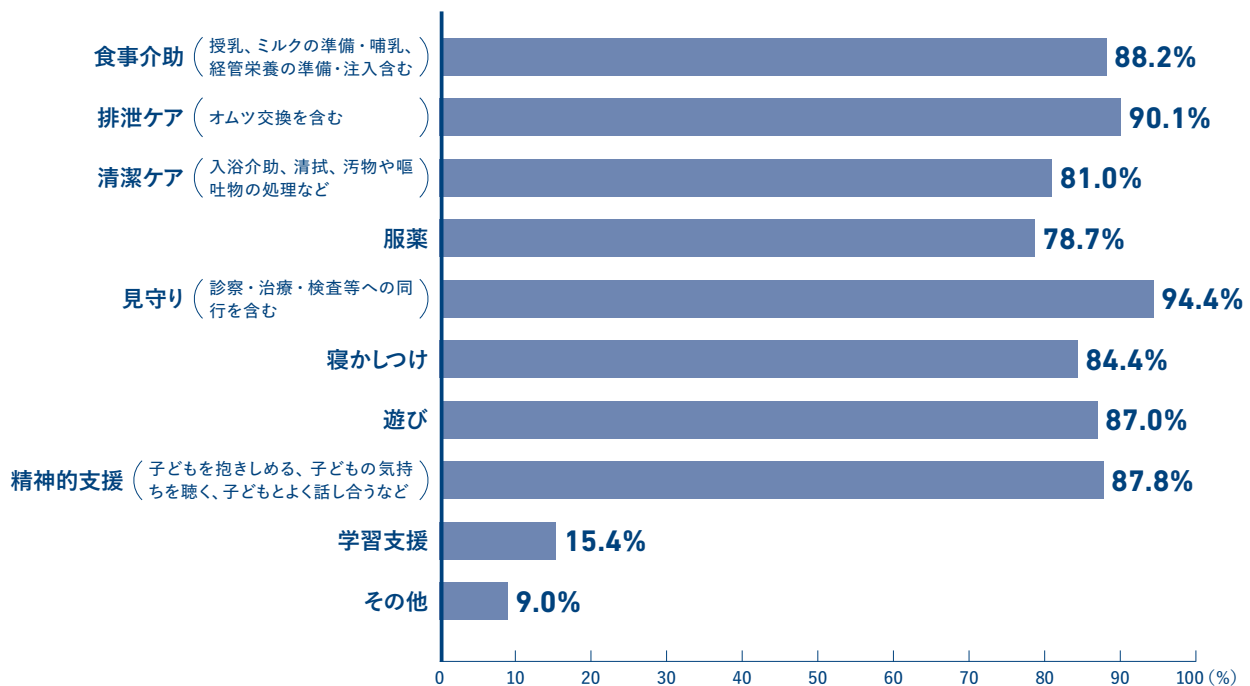
年齢3区分別（乳児／1歳未満、幼児／1～6歳未満、児童／6歳以上）でみると、「保育士」にまかせたいと思っているのは「幼児」の付き添い者が最も多かった。他の職種においても同様の傾向がみられ、幼児のケアにスタッフの支援を必要としていることが推測された。

9 付き添い中の世話やケア

■ 付き添い中に行った世話やケアの内容

付き添い中に行った世話やケアの内容について、下図の9項目および「その他」の選択肢を示し、あてはまるのもすべてを把握したところ、「学習支援」を除くすべての項目を、8～9割の付き添い者が行っていた。

図表16 付き添い中に行った世話やケアの内容 (n=3,643) 複数回答



「その他」に記入された内容のうち約半数が医療的ケアにあたり、以下のとおり非常に多岐にわたると同時に、専門職が対応すべき内容も散見される。

● 付き添い中に行った医療的ケアの主な内容（自由記入内容から抜粋）

吸引・吸入、カニューレ交換、胃管交換、気管切開ケア、排痰ケア、体位交換、人工呼吸器の管理、口腔ケア、浣腸、尿量の測定、腹膜透析、食事量の記録、血糖測定、インスリン注射、体重測定、軟膏塗布、検温、バイタル確認、導尿、管の自己抜去後の再挿入、脳波検査の発作マーキング、点眼、心電図のモニターの取り付け、補助人工心臓装着に伴う消毒作業の補助、胃ろうケア 等

また、1割ほどがリハビリテーション（マッサージ、ストレッチを含む）に関する内容であった。

年齢別にみると、食事介助、排泄ケア、清潔ケア、寝かしつけ等については、子どもの年齢が高くなるにつれて少しずつ割合が低下するが、「服薬」「見守り」「精神的支援」等は年齢によらず8割～9割以上の付き添い者が行っている。「学習支援」は6歳～14歳未満で5割前後と最も割合が高い。

付き添いの形態別に比較すると、すべての項目で「付き添い入院のみ」→「付き添い入院と面会の両方」→「面会のみ」の順に行っている割合が低くなる。「付き添い入院のみ」と「面会のみ」で30ポイント以上の差があったのは「寝かしつけ」47.1ポイント差、「服薬」39.2ポイント差、「遊び」37.4ポイント差であった。

「短期（2週間未満）」と「長期（2週間以上）」で付き添い者が行っていた世話やケアを比較すると、10ポイント以上の差があったのは、「清潔ケア」（16.6ポイント差）、「服薬」（21.6ポイント差）、「寝かしつけ」（11.4ポイント差）、「学習支援」（27.4ポイント差）だった。このうち、短期入院のほうが多かったのは「寝かしつけ」のみだった。

「コロナ前（2019年12月以前）」と「コロナ後（2020年1月以降）」とを比較すると、行っている世話やケアの内容に大きな違いはみられなかった。

■ 1日あたり世話やケアに費やした時間

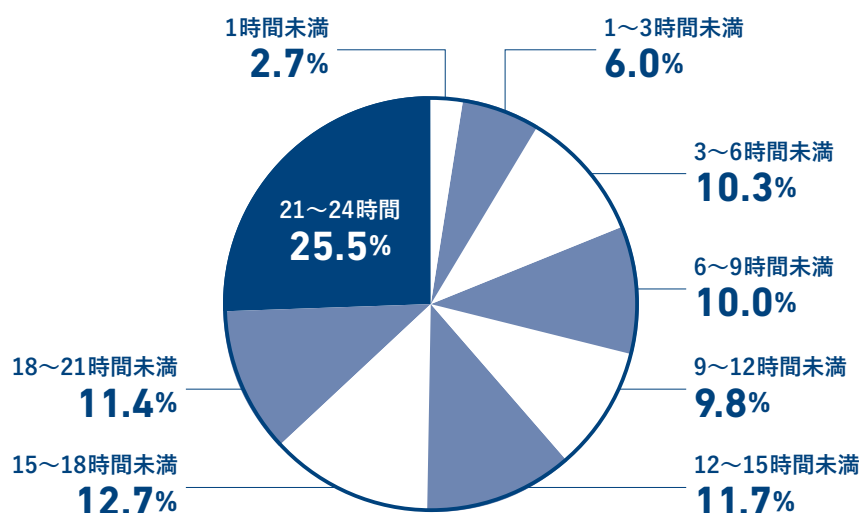
1日あたりで世話やケアに費やした合計時間を、3時間刻みの選択肢を提示して把握したところ「21～24時間」が25.5%（ $n=927/3,643$ ）と最も高く、「15～18時間未満」12.7%（ $n=461/3,643$ ）、「12～15時間未満」11.7%（ $n=425/3,643$ ）、「18～21時間未満」11.4%（ $n=414/3,643$ ）がこれに次いでおり、付き添い者の負担感の高さがうかがえた。

付き添いの形態別にみると、1日あたり6時間以上付き添っている人の割合を合計すると「付き添い入院のみ」が87.2%（ $n=2,280/2,614$ ）、「付き添い入院と面会の両方」が83.5%（ $n=558/668$ ）だった。そのうち「21～24時間」の割合は「付き添い入院のみ」では29.6%（ $n=775/2,614$ ）、「付き添い入院と面会の両方」では22.0%（ $n=147/668$ ）を占めた。「面会のみ」の場合は「1時間未満」20.2%（ $n=73/361$ ）と「1時間～3時間未満」30.4%（ $n=110/361$ ）の合計が半数を超え、割合として最も高かった。

「短期（2週間未満）」と「長期（2週間以上）」を比較すると、1日あたりの世話やケアに費やす時間に大きな違いはみられなかった。

「コロナ前（2019年12月以前）」と「コロナ後（2020年1月以降）」とを比較すると、1日あたりの世話やケアに費やす時間に大きな違いはみられなかった。

図表17 1日あたり世話やケアに費やした時間（ $n=3,643$ ）



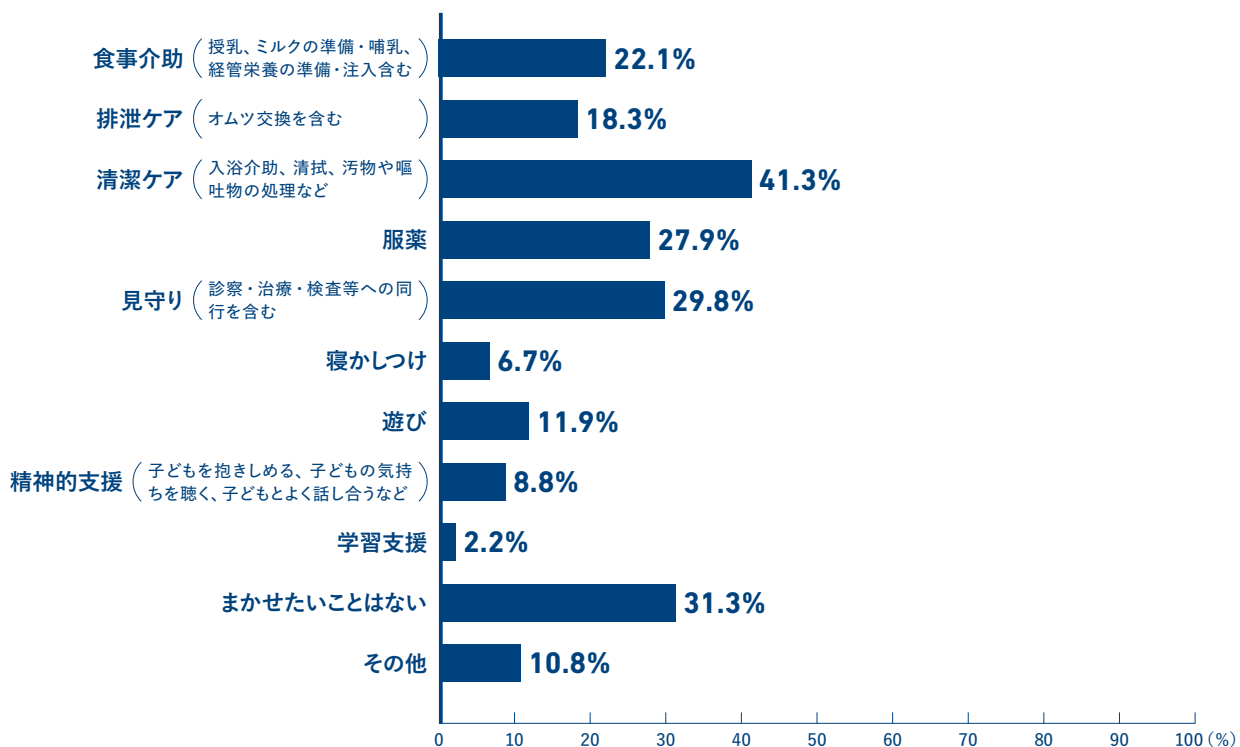
■ 付き添い中に行った世話やケアのうち看護師にまかせたいこと

付き添い者が行った世話やケアのうち看護師にまかせたいことを尋ねると、31.3% (n = 1,139/3,643) が「まかせたいことはない」と回答した。

まかせたいことのうちで割合の高い順に、「清潔ケア」41.3% (n = 1,504/3,643)、「見守り」29.8% (n = 1,084/3,643)、「服薬」27.9% (n = 1,018/3,643)、「食事介助」22.1% (n = 806/3,643) などが回答された。一方で割合が低かったのは「学習支援」2.2% (n = 79/3,643)、「寝かしつけ」6.7% (n = 245/3,643)、「精神的支援」8.8% (n = 320/3,643) などであった。

年齢3区分別にみると、看護師にまかせたいことの内訳に大きな違いはみられなかった。

図表18 付き添い中に行った世話やケアのうち看護師にまかせたいこと (n=3,643) 複数回答



■ なぜそのケアを看護師にまかせたいと思ったのか

「看護師にまかせたいケア」について、まかせたい理由に関する自由記述内容1,951件から、年齢区分別・ケアの内容別に特徴的な内容を抽出すると、以下のとおりである。

なぜケアを看護師にまかせたいと思ったのか

【乳児（1歳未満）】①

ケアの内容	特徴的な内容（多数／複数が同様の内容を回答したものを中心に）
全般	● 出産後すぐの付き添い入院だったため、体力や気持ちが不安定で余裕がなかった。 ● 付き添い者の食事やシャワーなど、最低限しなければいけないことを自由にできず、精神的なストレスと疲労が溜まった。 ● 成人患者であれば本来看護師がしているケアだから。 ● いつ検査に呼ばれるかわからないのに、子どもの世話をしながら自分のことも最低限済ませるのは本当に大変だった。 ● 上の子が精神的不安定になったのと、付き添い者は休業が必要で経済的に負担になったため。 ● 病気のことに對して素人である親がすべてのフォローを行うのは困難なため。
食事介助	● 誤嚥や窒息の危険もあるため、見守りしてほしいと思った。 ● 注入の時間に縛られて大変だった。特に夜中の注入はまとまって休めずつらかった。 ● 朝と晩の食事介助などまかせられれば日中の面会に切り替えられると感じた。 ● ミルク準備や片付け時に子どもを1人残して行かなければならずタイミングをみるのが大変だった。
排泄ケア	● 点滴やモニター、たくさんの管につながれていてオムツ交換が大変だった。 ● 大人の入院の場合は看護師が尿測するのに、なぜ子どもの入院のときは付き添い者がオムツ交換をして尿測しなければいけないのか疑問だった。 ● 排泄物の色や性状、量はその都度スタッフに報告しなければならず気が抜けなかった。治療に必要な情報なら、直接スタッフがやってくれると助かる。
清潔ケア	● 自身もシャワーがなかなか浴びられず眠れない中で子どもの沐浴は負担になった。 ● 嘔吐物の処理などは、感染対策をとってもらいたいから。 ● 沐浴などの日常的な清潔介助をしていただけると、その間に自分のこと（入浴や食事）ができるから。 ● 点滴しながらの清潔ケアは難しくプロにまかせたかった。 ● 術後の傷などをケアしながらの入浴だったので不安だった。
服薬	● 寝不足の状態や消灯後の暗い中で服薬をセットせねばならず、間違えて薬を飲ませてしまったため。 ● 服薬の種類や時間の管理など、医療に必要な内容を親が把握して管理することが当たり前とされていることは疑問。 ● 服薬は難易度が高い場合も多く精神的負担もあるので協力してほしい。付き添い者の交代によってミスも起こりうる。 ● 服薬時、私が寝ていても「薬の時間です」と起こされてつらかった。 ● 服薬の度に子どもが泣いたり吐いたりしてうまくいわずにストレスだった。1日数回の薬の準備、与薬、片付けや消毒漬け作業が大変だった。 ● 薬の管理から服薬まで親が担い、看護師がチェックする。過去数回、薬の種類に漏れがあったが責任の所在が曖昧で、親が自責の念にかられた。

なぜケアを看護師にまかせたいと思ったのか
【乳児（1歳未満）】②

ケアの内容	特徴的な内容（多数／複数が同様の内容を回答したものを中心に）
見守り	● 検査などに付き添ってくれば、子どもがいないうちに済ませたいことも終わらせられるため。 ● 付き添い者のシャワー時間（30分）くらいは、平日の日中のみ病棟保育士さんが子どもを預かってくれる。看護師の多忙さは重々承知しているので、コンビニへ行くためにはお願いしづらい。
寝かしつけ	● 眠る時間が少ない中、夜中にミルクを作ったりオムツを替えたり抱っこしたりするのが本当につらかった。夜間だけでも代わってもらえたら違っていたと思う。
遊び	● 自分の精神も限界なときはうまく子どもと遊べないので、頼りたいときがある。 ● 出産まもなく、精神的・体力的にゆとりがなく、知識も乏しかったため。
精神的支援	● 基本的には親がケアをしたいが、24時間365日ではなく、親が心身の健康を崩さず、きょうだいとの時間も大切にしながら付き添い生活を続けられるようにしたい。

なぜケアを看護師にまかせたいと思ったのか

【幼児（1歳～6歳未満）】①

ケアの内容	特徴的な内容（多数／複数が同様の内容を回答したものを中心に）
全般	● 医療行為の一部であり、大人の入院の場合医療従事者が行うことであるから（子どもの入院で行わなくなる理由がわからない）。 ● 在宅であれば母が行わなければいけないため、病院にいるときぐらい医療行為から解放され、本来の子どものお世話に専念したい。 ● 自宅では夫と手分けして行っているが、入院中はすべて1人で行うので睡眠時間が確保できず、体力的に厳しい。 ● 付き添い入院をしていると家庭が回らず、きょうだいの精神安定のためにも全日付き添いしなくていいようにしてもらいたい。 ● 単独入院児に対してはスタッフ（看護師、助手、保育士）が世話しており、親を労働者の一員としてみられている気分だった。 ● 看護の点数にケアも含まれているはずなのに親がほばしないといけないのはおかしい。親がするなら日当を払うべき。親の労力をタダで使われていると感じた。 ● 自分が休む暇がなく、買い物に行ったり、トイレに行ったりする余裕もあまりないため、私でなくてもよいケアは看護師にお願いしたい。 ● 24時間ずっと一緒なので少しの休憩時間がほしかった。睡眠も不安定で、夜間まったく寝られなかった日はつらかった。
食事介助	● 経鼻経管栄養を基本的に親がさせられる。病院にいるのに医療行為をなぜ親が行うのかが疑問。もしミスが生じたら誰の責任になるのか。 ● 夜間の注入だけはサポートしてもらえると、身体的に楽だったと思う。 ● ミルクの準備がどうにかならないのかと、相当ストレスであった。ミルクが必要なときに、すぐ飲ませられる状況でなかった。 ● 経管栄養を3時間おきに注入していたので、その前後に準備や後片付けをすると夜間も連続して眠れなかった。同室の方たちへの配慮もあり、音も立てられずつらかった。 ● 椅子もないのに離乳食を1人で抱えながら食べさせるのがつらい。
排泄ケア	● 術後は少しでも動かすと激痛で泣き叫んでいたのも、オムツ交換が大変で子どもも苦痛だった。ICUから導尿カテーテルを入れたまま一般病棟に移りたかった。 ● 医療に関し素人の母親が、服薬管理、排泄ケアや、尿測をすべてまかせられるのは非常に負担に感じた。 ● 頻度が多いまたは時間の見通しが立たないものは負担が大きいので、交代できる要員がほしい。 ● 抗がん剤治療中は点滴量も増えるため深夜のおむつ交換、おむつ（尿量）の計測だった。深夜の看護師さんが行ってくれる場合もあったが慣れないうちはつらかった。 ● 清潔ケアや排泄などは抗がん剤に曝露する恐れもあるため看護師に行ってほしかった。せめて、一緒にやってほしかった。特に嘔吐や下痢などで1日に何度もシーツ交換を一人でするのは大変だった。
清潔ケア	● CVや点滴がある状態でのシャワーなどはハードルが高い。 ● 酸素も点滴も付いている中でシャワーを浴びさせて自分のシャワーもする（しかも大体20分以内）のはすごく大変なので、お風呂だけは入れてほしい。 ● ドレーンやペースメーカーなどが付いた状態での入浴や清拭は、医療的な素人だと恐ろしかった。 ● 手術後はいろいろな管がついていたり、傷があったり酸素があったり1人で入浴させるのは大変だったから。 ● 食事や清潔保持は看護の基本であり、子どもの様子や体調を知るのに必要だと思うから。看護師さんは、子どもにまったく触れないので、子どもの病状や体調をまったく把握しておらず、治療中の副作用や退院後のお世話について相談しても、役立つアドバイスを得られなかった。

なぜケアを看護師にまかせたいと思ったのか 【幼児（1歳～6歳未満）】②

ケアの内容	特徴的な内容（多数／複数が同様の内容を回答したものを中心に）
服薬	● 鎮静をかけるときや薬を飲ませるときは経験がある看護師にお願いしたい。 ● 服薬のときにこぼしてしまった場合、どのくらい飲めていないとダメなのかわからないので見ていてほしかった。 ● 服薬拒否があり、結局私が無理やり飲ませていたが、もっとよい方法があれば実施してみせてほしかった。 ● 常に寝不足で、注意力散漫で薬の管理を間違えそうになった。 ● 専門的知識がないので服薬は看護師さんが巡回にきたタイミングで行ってくれると助かる。 ● 看護師さんからだとスムーズにお薬を飲んでくれそう。ママ1人では甘えが出て飲まない。結局看護師さんも合わせて3人で羽交い締めにして飲ませた。 ● 子どもが服薬を嫌がり、毎度暴れているのを押さえつけて無理やり飲ませていて、親子共にストレスの時間。親子の信頼関係にも影響するのかな、と不安で看護師さんをお願いしたいと思った。 ● 抗がん剤の粉薬をあげるのが怖い。
見守り	● 検査や治療で押さえつけたりする際、手加減してしまうので専門の方にしてほしい。 ● 大荷物を抱えながら点滴管理をしながらの移送は大変で、点滴が逆流してしまうトラブルもあったため。 ● 2歳未満で、24時間付ききりのため検査に行くときなどでしか買い物へ行けない。できれば検査室への移動等は看護師さんをお願いしたい。 ● 診察、治療、検査への同行は親と一緒になくても受けられると思うので、その20～30分の時間でも付き添い生活の中では親にとって大事なりフレッシュできる解放された時間のはず。 ● 基本的には見守るためだけに付き添いを求められていると理解しているが、結局はケア全般ほとんど家族で行っている。子どもの世話をしたくないわけではないが、基本的に入院患者に必要な見守りは病院側で行うよう人員配置すべきだと思う。 ● 処置を心配しながら見守るのがつらかった。その時間だけでも1人で考える時間がほしかったし、家族にゆっくりと電話して処置しているときの不安な気持ちを聞いてほしかった。
寝かしつけ	● 大変な治療を毎日していて体にも管が入っているので、子どもが夜になかなか寝てくれなくて大変。せめて0時から6時まででも、寝かしつけをお願いできたらと思った。
遊び	● 遊びのお世話が一番大変だった。ずっと一緒に過ごしていると飽きてしまうため、保育士のケアを増やしてほしかった。 ● 母親が近くにいと子どもからすべてのケアをママがいいと言われてしまい、病室から結局離れられず大変だった。親が病室から離れても問題ないように、保育士に遊びの相手をしつつ見守りをしてほしかった。 ● 親だけとの関わりでは物足りないようで、親以外の方とコミュニケーションをとりたがるため。 ● 病棟にあるおもちゃや本は限られているため、いつも同じような遊びになってしまう。
精神的支援	● 患児と付き添い者のみの閉鎖的なコミュニケーションでは、お互いに限界がある。例えば、付き添い者が入浴中は、ナースステーションで預かる、看護師が相手になるなど、付き添い者以外とのコミュニケーションも必要と感じた。 ● 親子間だけでなく冷静になって接することのできる第三者の介入も必要と感じたから。

なぜケアを看護師にまかせたいと思ったのか

【児童（6歳以上）】①

ケアの内容	特徴的な内容（多数／複数が同様の内容を回答したものを中心に）
全般	● 専門知識がある人がやったほうがうまくできると思うし、お金を払って入院している以上、治療に関わることは病院側がやるべきだと思うから。 そして、親は子どもの精神的な面などその他のサポートに集中したいから。 ● 医療ケアなどは看護師の仕事であり、入院中は親がやるべきことではない。 親が休む時間が必要。 ● 全部まかせたいわけではなく、体力限界時や売店に必要な物品を買い出しにいくなど、部屋を離れる場合などをお願いできたらと思う。 ● 病院ベッドの横で泊まり込むだけで心身ともにきついので、 食事の注入や服薬など、看護師の職務の範疇にあることはせめてやっていただきたい。 ● 突然の出来事に心と身体が追いついていない状況で、 新しい医療的ケアを覚えることは難しかったから。夜中も眠れない。 ● 精神的な支えに注力したいが、やるが多すぎて疲弊して余裕がなくなってしまうため。 ● 付き添いのいないお子さんにはプロの看護師が行うことも、 付き添いがあるとすべてまかされてしまい不公平感が募る。夜は子のケアや 他のお子さんの泣き声で寝不足の中、いろいろとまかされてしまうのはつらい。
食事介助	● 親がいると、親が何もかもするのが当たり前かのように、 何も言わずに食事のセットなど置いていかれるから。 ● 胃ろうからの食事や水分服薬の注入、寝たきりの排泄介助、体重50キロ身長170センチ 男児の入浴介助や車いすストレッチャーへの移乗など困難なため。
排泄ケア	● 排泄に関しては年頃の男の子で母親の介助を本人が嫌がったため。 ● 体の緊張が強くひとりだと便のおむつ交換が難しいから。 ● オムツ交換は夜中だけでもしてほしかった。ケモ中は2時間に一度交換していた。 ● 抗がん剤の影響で2時間に1回起きて排尿させる必要があり、 眠れない日が続くと付き添い者も体力がもたないので。
清潔ケア	● 身体が大きく一人での作業が難しかったため。 またオムツ換えや、シャワーは本人が嫌がり暴れることがあって危なかったから。
服薬	● 服薬は、子どもが特に苦手としていることで、親にとっても治療で苦しんでいる子どもに 苦手なことをさせるのはとてもつらく、ストレスになるため。 ● 入院中に1番苦労したのが服薬。風邪薬と違い、苦い薬を嫌がる子どもに 薬を飲ませるのは大変で。ケモ中だと吐いたらもう一度飲み直しも大変だった。 ● プロのほうが上手にできると思うから。母がやるより言うこと聞いてくれる気がする。 ● 服薬ミス防止やカルテ記入をしてほしいので服薬はおまかせしたい。
見守り	● 検査と治療の大切さを、子どもにもわかりやすく説明してほしい。 ● 付き添っていると自分の時間がまったく取れず、きょうだい児の対応などもできないので、 見守りや遊びを第三者（ボランティアさんやシッターさん含む）にもう少しまかせられたら 家族が楽になると思う。 ● 親の食事や買い出し、連絡等で子どものそばを離れないといけないときに見守ってほしい。 ● 見守りに関しては、年齢的にも親の付き添いはいりませんといいつつ、 検査同行は親が連れていくのが当たり前になっている。 点滴の扱いや車いすを押すことも初めてなのに、点滴も一緒に持っていく 行為自体危ないと思いました。途中で点滴が鳴ったりするなど不安で仕方なかった。

なぜケアを看護師にまかせたいと思ったのか 【児童（6歳以上）】②

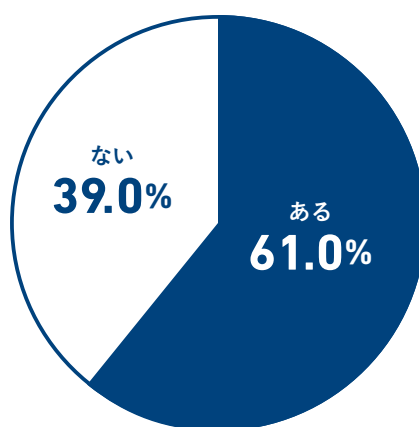
ケアの内容	特徴的な内容（多数／複数が同様の内容を回答したものを中心に）
寝かしつけ	● 大変な治療を毎日していて体にも管が入っているので、子どもが夜になかなか寝てくれなくて大変。 せめて0時から6時まででも、寝かしつけをお願いできたらと思った。
精神的支援	● 子どもの性格や生活、状態を看護師さんにもみてもらって、共有したい。 ● 年頃になると、母親には気を使って言わなかったりすることがある。 ● 何日も制限された中でいると親も子どもおかしくなってくる。第三者と話す機会は貴重。 ● 精神的支援は、第三者のほうが伝えやすいこともある。 ただし、担当の看護師など、ある程度関係ができていないと難しい。 ● 身内だからこそ、強がって話せなかったりすることもあるし、 長期の付き添いで親も精神的につらくなり、心が持たないときがあるから。 ● 親とは違う誰かと仲良くなることで、外部との関わりが少ない中で、 外部ともまだつながっていると、子どもに思ってもらえるかと感じた。 ● 子どものケアは親ができると思うが、親自身のケアは自分でなんとかできないので、 自分自身の精神が不安定になり大変。 なので、話を聞いてくれる専門の方がいてくれればよかった。 ● 看護師との信頼関係を深めてほしいから。 ● 本人が嫌がることは、第三者が行ったほうが、うまくいく場合があるから。 ● 思春期での発症で、病棟内に同じくらいの年齢の子がいなかったため、 同年代の子とつながってわかりあうことができず、 親子でのみのコミュニケーションでは不安だった。

■ 看護師にケアをまかせられないと思った経験の有無

付き添い中に、看護師に子どものケアをまかせられない（親が付き添わないと安心できない）と思った経験があるかどうかを尋ねると、61.0%（ $n = 2,221 / 3,643$ ）が「ある」と回答した。年齢区分によらず、ほぼ同様の傾向であった。

「経験あり」の割合を病院の種別にみると、「大学病院」65.0%（ $n = 1,008 / 1,550$ ）、「子ども病院」64.0%（ $n = 402 / 628$ ）の割合が「それ以外の病院」55.5%（ $n = 798 / 1,437$ ）よりもやや高かった。

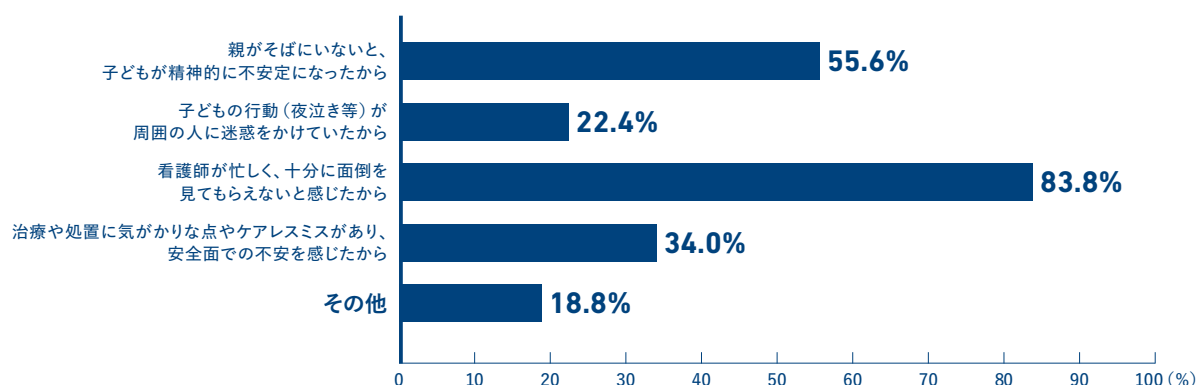
図表19 看護師にケアをまかせられないと思った経験の有無（ $n = 3,643$ ）



■ 看護師にまかせられないと思った理由

看護師にケアをまかせられないと思った経験が「ある」と回答した2,221人に、4つの選択肢を示して理由を尋ね、複数回答で把握した。「看護師が忙しく、十分に面倒を見てもらえないと感じたから」83.8%（ $n = 1,860 / 2,221$ ）が最も割合が高かったほか、「親がそばにいないと、子どもが精神的に不安定になったから」55.6%（ $n = 1,235 / 2,221$ ）、「治療や処置に気がかりな点やケアレスミスがあり、安全面での不安を感じたから」34.0%（ $n = 755 / 2,221$ ）、「子どもの行動（夜泣き等）が周囲の人に迷惑をかけていたから」22.4%（ $n = 498 / 2,221$ ）と続いた。

図表20 看護師にまかせられないと思った理由（ $n = 2,221$ ）複数回答



「その他」として具体的に記入された内容のうち、代表的なものを挙げると以下のとおりである。

- 看護師によって言葉がきつかったり、乱暴だったり、ミスがあったりでまかせられないと感じた（多数）。
- ナースコールを押してもこない。親がケアしたほうが早い（多数）。
- 機器のアラームが鳴っていても見に来ないなど、危険に感じた（多数）。
- 様子を見に来る頻度が低く、子どもが一人でいる間に
機器のバッテリーが切れ栄養や水分が流れていないことがあった。
- 痰があふれてもすぐ吸引に来てくれるわけではない、心拍数のアラートが出ても確認に来ない、
泣いていてもすぐには来てくれない（多数）。
- 子どもの扱いに慣れておらず、まかせるのが不安（多数）。
- 指示が入らない大勢の子どもを少数の夜勤看護師で看るのは不可能だと理解しているため、
親が付き添ってケアをするのは当たり前と考えた（複数）。
- 看護師は医療的なことはやってくれるが、精神的な支えまではやってくれない。
- 保湿ケアをお願いしていたのに、面会に行くと皮膚の状態が悪化していた（複数）。
- 見守りを頼んだのに、戻るとベッドにひとりぼっちにされていた（複数）。
- 他の付き添いなしの子どもが、泣いてもベッドの柵の中で一人にされているのをみて（複数）。
- 病院によって引継ぎや情報共有が正確に行われていないと感じた（複数）。
- 日々の変化や発作に看護師が気づくことが難しい、親でないとわからない（複数）。
- 看護師が通常業務で忙しく、声をかけるのが申し訳なかったから（多数）。
- まかせるかどうかの選択はなく、親がやるのが当たり前の雰囲気
自分も疑問に思わずやるしかないと思っていた（多数）。

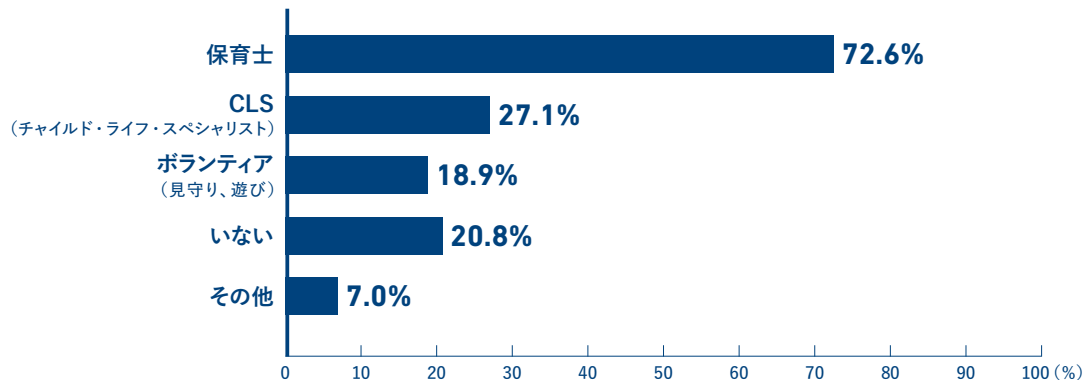
年齢3区分別にみると、「看護師が忙しく、十分に面倒を見てもらえないと感じたから」は乳児（1歳未満）で89.3%（ $n = 591/662$ ）、幼児（1歳～6歳未満）で85.9%（ $n = 936/1,090$ ）、児童（6歳以上）で82.6%（ $n = 333/403$ ）とすべての区分で高かった。「親がそばにいないと、子どもが精神的に不安定になったから」は、幼児66.4%（ $n = 724/1,090$ ）、児童54.1%（ $n = 218/403$ ）、乳児44.3%（ $n = 293/662$ ）、「子どもの行動（夜泣き）が周囲の人に迷惑をかけていたから」は、幼児26.4%（ $n = 288/1,090$ ）、乳児23.9%（ $n = 158/662$ ）、児童12.9%（ $n = 52/403$ ）だった。

入院している病院の種別にみると、大学病院、子ども病院、それ以外の病院ともに「看護師が忙しく、十分に面倒を見てもらえないと感じたから」が8割強と最も高く、そのほかの項目の傾向も全体と同様であった。

■ 看護師以外に世話やケアをまかせたい人

全回答者について、看護師以外に世話やケアをまかせたい人としてあてはまるものすべてを把握したところ、「保育士」72.6% (n=2,638/3,633)、「CLS(チャイルド・ライフ・スペシャリスト)」27.1% (n=2,711/3,633)、「ボランティア」18.9% (n=688/3,633)であった。「いない」という回答も20.8% (n=756/3,633)みられた。

図表21 看護師以外に世話やケアをまかせたい人 (n=3,643) 複数回答



「その他」として具体的に記入された内容のうち、代表的なものを挙げると以下のとおりである。

- 看護実習生 (多数)、医学生、研修医
- 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士
- ホスピタル・プレイ・スペシャリスト、子ども療養支援士
- 祖父母などの親族
- 院内学校の先生
- 普段医ケアをお願いしているヘルパー、訪問看護師

年齢3区分別にみると、幼児(1歳～6歳未満)では「保育士」74.6% (n=929/1,244)、「CLS(チャイルド・ライフ・スペシャリスト)」23.7% (n=295/1,244)、「ボランティア」17.0% (n=211/1,244)ともに、全年齢区分のなかで割合が最も高く、この年代に付き添う際、特にスタッフ等による支援を必要としていることがうかがえた。